

# 農作物技術情報 第6号の要約

令和2年 8月27日発行  
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p><b>生育状況</b>:刈取り始めの目安となる登熟積算気温が950℃に達する日は、平年より早まると予想される。刈取適期の判断は、積算温度のみに頼らず、登熟の状況をよく観察しておこなうこと。</p> <p>○刈取適期の判定は、黄化靱割合で80~90%を目安に、適期に収穫すること。不稔発生割合などで異なるので、稲穂をよく見て判定する。</p> <p>○コンバインや乾燥調製施設の点検、整備を早めに行う。</p> <p>○籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げる。</p> <p>○次年度、品種の切り替えを予定している場合は、今秋からの異品種混入(コンタミ)対策を徹底する。</p>
畑作物	<p><b>生育状況</b>:大豆の開花期は平年並~やや遅かった。子実肥大は順調である。</p> <p><b>技術対策</b></p> <p><b>大豆</b>:マメシンクイガと紫斑病の防除適期を迎えているので、莢に薬剤がよく付着するように散布を行う。</p> <p><b>小麦</b>:越冬前に十分な生育量が確保できるよう、排水対策を早めに行い、適期播種を行う。圃場条件が整わない場合は、無理に播種せず、条件が整い次第播種量を増やして対応する。</p>
野菜	<p><b>生育状況</b>:果菜類の生育は高温や7月の日照不足の影響で草勢の低下や果実品質の低下が見られる。雨よけほうれんそうも日照不足から株重が軽く、大雨時の立枯症状が見られた。キャベツでは長雨による定植の遅れ、レタスでは日照不足による生育遅れが見られた。ねぎの生育は概ね順調。</p> <p><b>技術対策</b></p> <p><b>施設果菜類</b>:気象条件に応じたハウスの適切な温度・かん水管理で草勢維持をはかり、障害果の発生防止対策を行う。</p> <p><b>露地果菜類</b>:摘葉と病害虫防除を徹底し、生育に応じた追肥や葉面散布を行い草勢維持に努める。萎れが見られる場合は原因究明をしっかりと行う。</p> <p><b>雨よけほうれんそう</b>:天候急変に対するハウス内の温度や圃場水分管理を適切に行う。べと病やアザミウマ類等病害虫の防除対策を徹底する。</p> <p><b>露地葉菜類</b>:コナガ、ヨトウガ、アザミウマ類等害虫の適期防除を行う。腐敗性病害等の対策を徹底する。</p>
花き	<p><b>生育状況</b>:りんどう中生以降品種、小ぎく9月咲品種ともに生育は平年並~やや前進。病害虫については、りんどうで葉枯病とオオタバコガ、小ぎくで白さび病がそれぞれ全域で増加傾向。</p> <p><b>技術対策</b></p> <p><b>りんどう</b>:花腐菌核病などの病害虫防除を適期に行う。</p> <p><b>小ぎく</b>:収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保する。</p> <p><b>共通</b>:強風に備えネットと支柱を点検、補強する。</p>
果樹	<p><b>生育状況</b>:りんごの果実生育(横径)は、県平均で平年比98~103%と平年並み。早生品種の果実品質は糖度、硬度が低いものの熟度はほぼ平年並の見込み。ぶどうの収穫期は概ね平年並みの見込み。</p> <p><b>技術対策</b></p> <p><b>りんご</b>:早生品種の収穫時期となるので、硬度を重視した適期収穫に努める。病害虫では、予察と適期防除を徹底する。なお、収穫期となっているので、農薬のドリフトや使用基準は十分に注意する。</p> <p><b>ぶどう</b>:食味を重視し、品種毎の適期収穫を励行する。</p>
畜産	<p><b>生育状況</b>:2番草の収穫が遅れている地域が多く、収量はやや良~不良となっている。飼料用とうもろこしは雌穂、雄穂の出穂が平年よりもやや遅れている。</p> <p><b>技術情報</b></p> <p><b>飼料用とうもろこし</b>:収穫が始まる前に収穫機械やサイロの点検、資材の準備をする。サイレージの調製は十分な踏圧と速やかな密封がポイント。ツマジロクサヨトウが県内で初確認されたので、圃場見回りにより早期発見に努める。</p> <p><b>牧草</b>:オーチャードグラスは秋の最終刈り取り後に施肥を行う。</p> <p><b>暑熱対策(牛)</b>:残暑による影響を緩和する対策を継続。暑さの後遺症による繁殖成績の低下の緩和に努める。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用:使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全:事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は令和2年9月24日(木)発行の予定です